

価値創造の実践

～収益構造の変革～

NAGASEの“現場”である「商社」「製造」「研究開発」の機能を掛け合わせてビジネスを磨き上げ、社会やお客様へ新たな価値を提供します。

CONTENTS

- | | | | |
|----|-----------------------------------|----|-----------------|
| 31 | 営業担当取締役メッセージ | 46 | 商社機能——事業部長メッセージ |
| 33 | 「基盤」「注力」「育成」「改善」
4つの領域における取り組み | 53 | 製造機能 |
| 43 | セグメント一覧 | 55 | 研究開発機能 |
| 45 | NAGASEのユニークな機能 | 57 | 機能の掛け合わせの現場から |

リアルとDXのハイブリッドで、現場力をさらに強化



取締役
常務執行役員
鎌田 昌利

価値に迫り、現場で考え抜く—— 利益率改善は“気付き”の契機

ここ数年、私が現場で何よりも強調してきたのは、「利益率」です。“率の経営”は、数字だけの話ではありません。利益率の低いビジネスは、そのビジネスモデルが差別化されていないことを表しています。お客様の困りごとを丁寧に聞き、NAGASEだからこそできることは何かを考え抜くことが、ビジネスの本質に迫ることであり、ひいては市場からの真の評価に繋がります。お客様と向き合う現場では、現状維持バイアスがかかりがちですが、利益率改善への取り組みはそれを考えるきっかけにもなっており、目先だけでない本当の利益が何か、気付きを与えることも、現場のリーダーや我々の役目だと考えています。

営業担当としてお客様との信頼関係を築くコミュニ

ケーションは暗黙知でもあり、学ぶためには経験を積むことが何よりも重要です。担当者にはその機会を自分で掴みにいってほしいと思いますし、私も現場に出る姿を見せています。IQ以上にEQが求められるやりがいある仕事です。生成AIが発展しても、現場でしか得られない“信頼”の積み重ねが、NAGASEの競争力であると確信しています。

NAGASEだからこそ変化はチャンス 経営戦略のパートナーとして

環境変化は、ケミカル領域で培った製品・サービスの多彩さと、商社事業を通じて築いてきた幅広いネットワークを持つNAGASEにとってチャンスです。川上から川下まで業界に精通していることで、お客様の変化に順応し、その先をともに考える経営戦略のパートナーになることができます。その一つのアプローチとして私が重視してきたアカウントプランニング、つまりお客様の経営計画を読み解き、仮説を立て、グループの総力でソリューションを提案する取り組みは、事業部横断の連携へと発展しています。

今後これを下支えするのがDXです。クラウド型のMAツール・CRMツールを活用し、組織を越えた情報連携を進めています。事業部の垣根を越えて、意見や情報が横に繋がることで、マーケティングの質向上に留まらずNAGASEの独自性に磨きがかかると考えています。そのためにデジタルをどう活用するか、次期中期経営計画では、DXが大きなテーマとなります。

誠実正道の歩み続けることで 企業価値最大化を目指す

この数年で取締役会での議論は、経営の質を一層高める内容へと進化しました。営業現場を預かる執行役員、そして経営ガバナンスを担う取締役として、業績だけでなく中長期的な企業価値向上の期待に応えてまいります。

誠実に正道を歩む——組織全体に深く根づくNAGASEの経営理念であり、私が一貫して大切にしてきたその信条を貫くことで、ステークホルダーの皆様からの信頼獲得に繋げていきたいと考えています。

「機能の掛け合わせ」を強化し、 成長戦略を着実に遂行する



取締役
執行役員
磯部 保

「QUICK WIN」で着実に前進

2023年6月以降の「QUICK WIN」の実行を通じて、激変する外部環境にアジャストできた結果、定量面では期待以上の成果が出ています。定性面も、概ね順調に推移していると評価しています。

私が統括するフード、ライフサイエンス、バイオ分野では、旭化成ファーマ株式会社より診断薬事業等を取得できたことが2024年度の大きな成果となりました。次期中期経営計画期間においては、この成果が事業成長として着実にかたちになっていくよう、注力していきます。

機能連携をさらに強化 研究開発は、次のステージへ

従来課題であった研究開発機能と製造機能の連携につ

いては、一体となって取り組める体制が整ってきました。上市を目指しているバイオ由来の高吸水性ポリマー(SAP)や、希少アミノ酸「エルゴチオネイン」は、その2つの機能に加えて、「商社」のネットワークを活用して新たな市場参入を狙う、まさに“NAGASEらしい”取り組みです。

新製品・技術の開発サイクルの短縮化は、企業の成長の鍵となります。その打ち手として、2020年に子会社化した、樹脂等の分野の製品・技術開発や製造プロセス開発を手掛ける米国Interfacial Consultantsの手法「スコアカード」の導入も検討しています。顧客ニーズ、市場性・収益性、そして“NAGASEが取り組むべき課題であるか”を点数化して研究開発テーマの優先順位を判断する仕組みです。研究開発の現場に利益の観点を取り入れることは難しいですが、顧客課題に刺さる取り組みを進行するためにも、今後この手法をバイオ分野にも展開していく方針です。

また、現在はほとんどが国内にある研究開発機能をグローバルでどう展開していくかも成長のポイントです。必要があれば組織自体を変えて、人財・技術の連携のスピードアップを図ります。グループ内はもちろん、外部との連携、投資も視野に入れながら“NAGASEらしい”研究開発をさらに進化させたいと考えています。

長期視点で人と組織の力を さらに高める

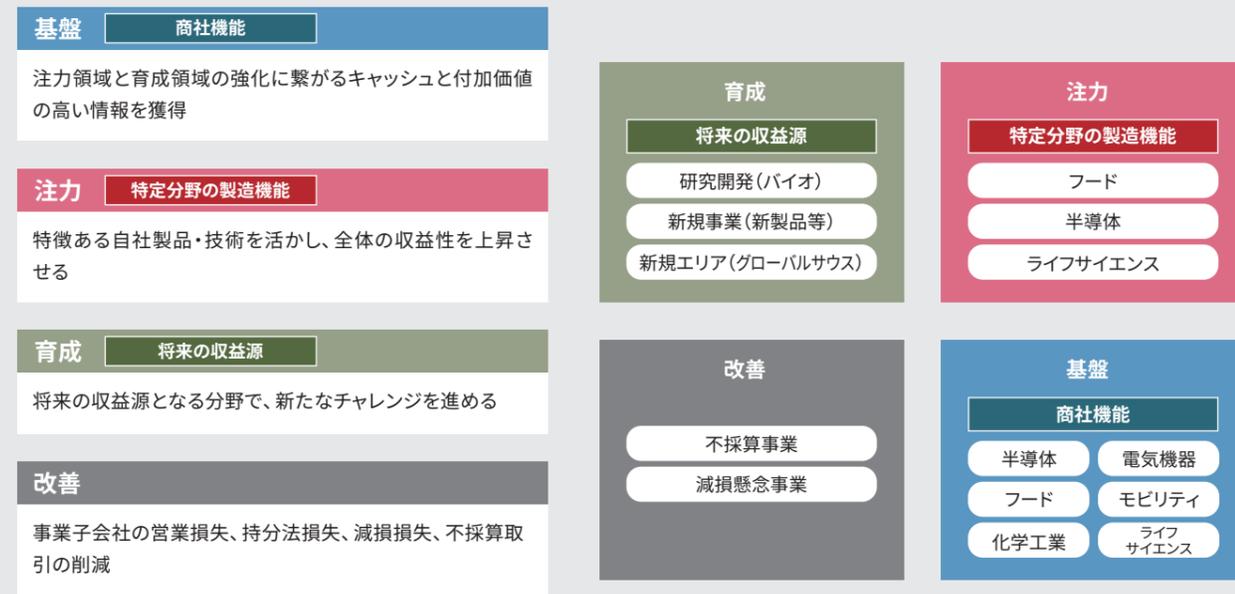
最近、社外の方から「NAGASEは変わったね」と言われるようになりました。これは変革を推し進めるトップのリーダーシップに加え、従業員が単にトップに「ついていく」のではなく、一人ひとりが変わる意識を持って主体的に行動しているからです。どんなに厳しい状況でも、NAGASEの人財は変化することで乗り越えることができる——これこそが私たちの強みだと自負しています。

次の100年も社会から必要とされる会社であり続けるために、私たちは個の力を最大限に引き出し、それを組織の成長へとつなげる仕組みを築きながら、新たな価値の創出に挑み続けます。こうした取り組みを通じて、全従業員が一丸となって、持続的な成長を実現していきます。

収益構造の変革

「収益構造の変革」のポイントは、経営資源の最大効率化を図るための経営資源の確保と再投下です。具体的には効率性および成長性の観点から、事業を「改善」「基盤」「育成」「注力」の4つの領域に分類し、各領域に応じて戦略を実行しています。

「商社」「製造」「研究開発」の機能軸で各領域を再整理



「統合報告書 2025」で紹介するトピックス一覧表

領域	トピックス例	頁
基盤	商社機能 ●顧客接点と付加価値の高い情報を生み出す源泉	P.34
注力	製造機能(半導体) ●半導体×環境×技術で業界へ貢献	P.35-36
	製造機能(食品) ●Prinovaグループ(Nutrition事業の収益性回復、成長戦略)	P.37-38
	製造機能(ライフサイエンス) ●ナガセダイアグノスティックスの診断薬事業	P.39
育成	グローバルサウス ●インド、インドネシア、メキシコ、ブラジルにおける取り組み ●インドにおける合併会社設立および樹脂販売ビジネス拡大	P.40
	新規事業の立ち上げ ●新たなビジネスの発掘(コーポレート・ベンチャー・キャピタル)の取り組み	P.41
	研究開発(バイオ) ●健康寿命の延伸に貢献するエルゴチオネイン	P.41
	近年の成果	頁
改善	改善事業への取り組み	P.42

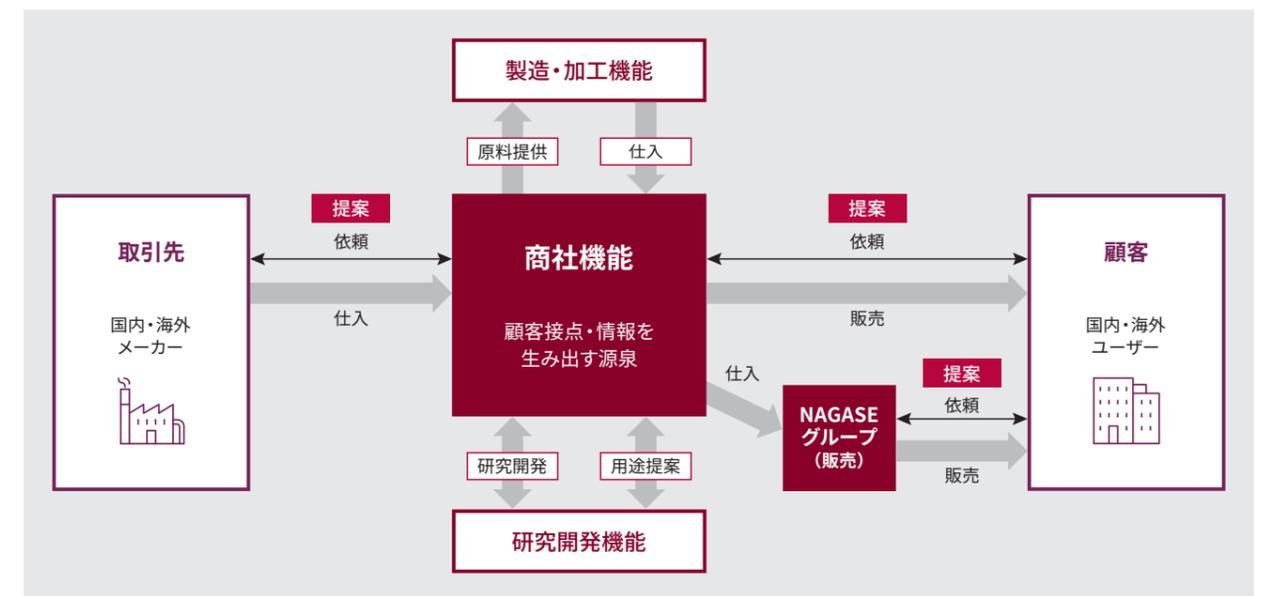


商社機能 顧客接点と付加価値の高い情報を生み出す源泉

NAGASEの商社業の役割と強み

NAGASEが有する機能のなかでも「基盤」と位置付ける商社機能はキャッシュとともにお客様接点と情報を生み出す源泉です。機能素材、加工材料、電子・エネルギー、モビリティおよび生活関連の5つのセグメントで素材やサービスを提供し、お客様の声やニーズを収集しながら新たな事業機会を発掘しています。その積み重ねが

NAGASEの現場力です。商社機能を通じて社会・お客様との接点を獲得し、付加価値の高い情報をもとに、各機能の強みを最大限引き出して新たな価値を創出します。また、与信や在庫管理に加え、化学品におけるレギュレーション機能により、お取引先の生産体制が多様化するなかでも安定的に素材を提供し、サプライチェーンの維持に貢献しています。



商社業の強みを活かした取り組み

長瀬産業は、化学系専門商社として培ったネットワークや専門知識、危険物を安全に運ぶソリューションを活かして業界課題の解決に貢献しています。最先端半導体の国産化を目指すRapidus株式会社の半導体材料輸送の取りまとめ業者の1社に選定されており、サプライヤー各社が納入する材料を本州のターミナル拠点に集約し、北海道への集中輸送をサポートします。

また「化学品AI共同物流マッチングサービス」では、危険物として取り扱われる化学品の輸送をマッチングするアプリケーションの提供を通じて、物流の人手不足に伴う製造現場の課題解決に対し、効率化やCO₂排出抑制といった切り口で貢献しています。

基盤事業の課題

- 適正な在庫管理による運転資金の最適化
- 関税問題など、地政学リスクによるサプライチェーン断を想定したBCP対応
- 国内石化業界の再編を見据えたサプライチェーンの確保
- Prinovaのフード業界でのネットワークを活用したナガセヴィータ製品の拡販
- デジタルを活用したマーケティングの浸透と業務の効率化
- 業界や事業の枠を超えたさらなる協業

製造機能 半導体特集

「半導体×環境×技術」で業界へ貢献

国内半導体産業とともに成長した歩み

日本国内における半導体産業は、NAGASEグループが合併会社を設立していた米国イーストマン・コダック社(現・コダック社)の総代理店として、後に半導体フォトリソグラフィ技術に応用される映像用フィルムの輸入を開始したことから始まりました。1974年からは日本国内の半導体関連企業へ向けて、半導体技術の向上を目指す産業横断的な勉強会“ナガセマイクロエレクトロニクスセミナー”を継続開催しています。

フルバリューチェーンでの関わり

NAGASEは、素材の製造・販売、装置の製造・販売を通じて、半導体産業のフルバリューチェーンに関わりグローバル展開する、ユニークなポジションを築いています。グループ内に製造機能を持つからこそ、要所となる複数工程で課題解決力を発揮することができ、また、変化のお客様のニーズや技術トレンドにスピーディに対応してきました。お客様の「次」へ向けて、前後のプロセス改善や、関係者も巻き込んだ提案を行っています。

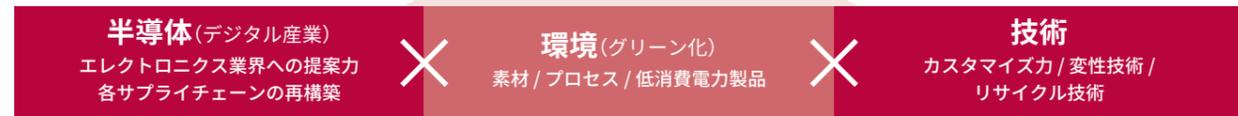
半導体関連取引先数
約**300**社

ケミカル商社としての取引先数
約**18,000**社

半導体業界の課題

- 半導体の重要性増加 (IoTの増加、通信の発達など)
- 経済安全保障 (地政学リスク⇒地産地消ニーズ、サプライチェーン再構築)
- チップレット化をはじめとする技術トレンド
- 環境規制、リサイクル(取り扱い製品の変化)

NAGASEグループの提供価値



NAGASEグループの提供価値を裏打ちする強み(資産)と戦略

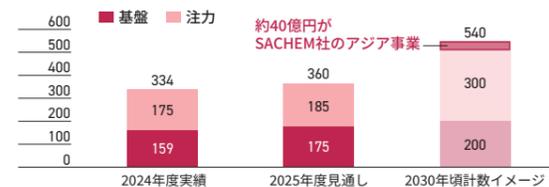
- 未だ世にない製品を自社技術で開発、他社が既にやっているところは狙わない
- まず最大手のお客様での実績化、更にはデファクト化を狙う
- 自社製品の周辺材料・装置メーカーを巻き込みながらデファクトの地位を固めつつ商社業としての幅も拡大
- NAGASEモデルを磨く為、顧客の“真の課題”にアプローチできる武器をさらに充足させていく



SACHEMのアジア事業買収を発表

半導体の製造工程に欠かせない薬液「高純度現像液(TMAH)」のリサイクル事業の本格的な稼働にあたり、2025年6月、米国のSACHEM, Inc(以下、SACHEM社)のアジア地域における半導体用高純度化学品事業を買収しました。高純度化学品の高い技術・知見を有するSACHEM社とは、2008年より長瀬産業とナガセケムテックスの3社の合併会社であるSN Tech株式会社(以下、SN Tech社)で液晶パネル用の現像液リサイクルに取り組んできました。培ったノウハウをもとに、先端半導体向けの回収・再生事業をスタートさせ、半導体製造事業を拡大に繋げます。

半導体分野の売上総利益(億円)

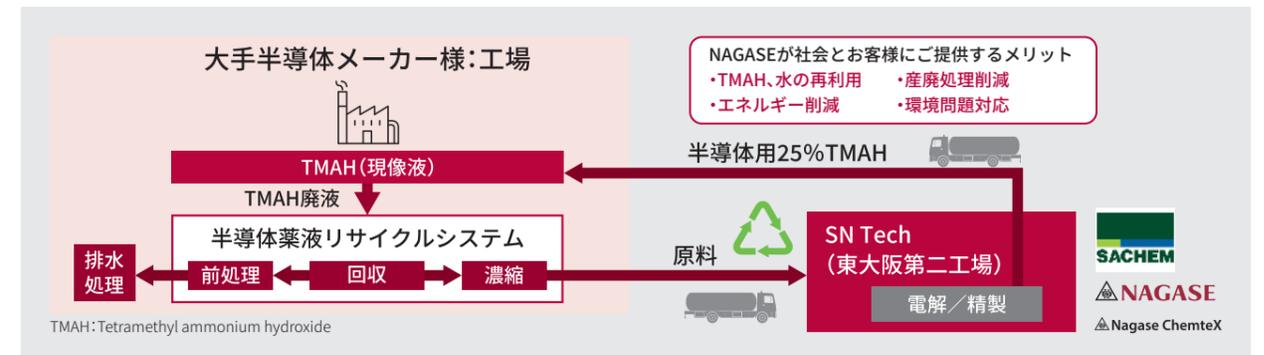


現像液リサイクルで業界の環境対応に貢献

これまで使用後の現像液は化学品として産廃処理されるものとして、半導体製造事業において環境負荷や収益面での課題とされてきました。本事業では、高度な電解・精製技術でそれを回収・再生し、再び半導体製造業向けに納品します。国内初であり、世界的にも最先端の事例です。新工場はTMAHの製造・高純度化を行う電解設備、精製設備を有しています。環境負荷低減と同時に、現像液の安定調達、産廃処理に要していたコストを削減し、収益性改善にも貢献します。



2025年3月に新設した高純度現像液(TMAH)の回収・再生を行う工場(東大阪市)



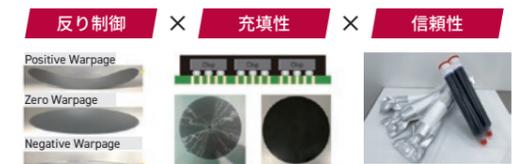
先端半導体のパッケージングの課題を解決「エポキシ封止材」

1970年にエポキシ樹脂の製造を開始、1980年代にはエポキシ樹脂を液状封止材に加工する技術を日本に導入しました。以降、さまざまな用途や形状に適用可能な技術に進化させました。今やナガセケムテックスの液状封止材は生成AI等に不可欠な先端半導体用途でデファクトスタンダード(業界標準)となっています。封止工程において加速する積層化・複雑化のニーズに、高い「変性技術」

と「信頼性」で対応しています。2000年以降はシート状封止材の開発にも成功し、プロセス改善およびコスト削減といったお客様の負担低減を実現しています。

半導体パッケージ構造の複雑化

半導体封止材に求められる機能



製造機能 Prinova特集

注力領域・フード分野の牽引の柱 躍進的かつ持続的な成長を実現

2019年にNAGASEグループに加わった米国Prinovaグループは、食品・ニュートリション分野における素材供給から製品開発、最終製品の製造までを一貫して手掛ける、バリューチェーンの垂直統合型事業を展開しています。



取り扱い製品

欧米を中心に、食品用ビタミンやアミノ酸、ミネラル、甘味料、カフェインなどの素材の取扱いが世界有数の規模を誇るほか、特にスポーツニュートリション市場におい

ては豊富な経験と広範なネットワークを有しています。

また、事業拡大に向けた積極的な投資を継続しており、製造機能の強化と新たなビジネス領域への展開を図ってきました。

投資による事業の強化・拡大		
目的	投資の事例と創出価値	
高付加価値サービスの獲得	甘味料ディストリビューター・TIH 社買収(2021年)	甘味料市場への展開
キャパシティの増強/効率化	製粉・微粉加工受託を手掛けるLakeshore 社買収(2021年)	粉末加工機能拡充
	エッセンシャルオイル精留加工会社・Flavor Tec 社買収(2023年)	エッセンシャルオイル製造機能拡充
地域戦略の推進	米国ユタ州に工場新設(2022年)	受託製造拡大
	食品ニュートリション(栄養)素材商社・Aplinova 社買収(2025年)	南米市場への展開

※ TIH: The Ingredient House, LLC ※ Lakeshore: Lakeshore Technologies, LLC
※ Flavor Tec: Flavor Tec - Aromas De Frutas Ltda

Prinova Group LLC トップからのメッセージ

グローバル市場で進化し、価値を提供し続けるパートナーとして

Prinovaは、世界最大級の食品・栄養素材販売網を有するグローバル商社としての強みを背景にプレミックスやフレーバーなどの受託製造事業を拡大し、商社と製造を兼ね備えたハイブリッド型ビジネスモデルへと進化してきました。2019年にNAGASEの一員となって以降、米国、欧州を中心に広がるグループ23社の売上規模はさらに拡大し、製造機能の強化と市場アクセスの拡充も着実に実現してきました。

当社の成長は単なる規模の拡大にとどまらず、商社機能のスケールと製造技術のイノベーションを融合させることで、サプライチェーン全体に新たな価値を創出することにあります。今後もハイブリッド型モデルをさらに発展させ、グローバル栄養業界における信頼されるパートナーとなることを目指してまいります。



Chairman 兼 President & CEO
池本 真也

Nutrition事業の収益性の回復にむけて

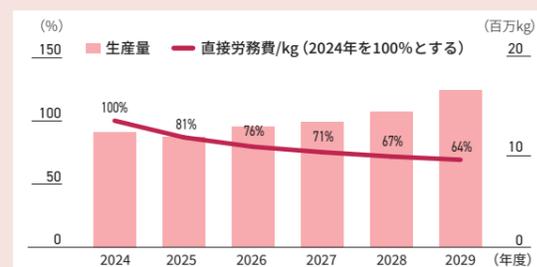
Nutrition事業の現状

米国ユタ工場の稼働が計画どおり進まず事業全体で計画未達となっています。早期黒字化を最重要課題としてリソースを投下しており、現在は、効率化による原価低減、トップラインの改善に取り組んでいます。

効率化による原価低減

24年度に導入した自動化設備の本格稼働と工程制御の高度化により、生産性の向上、各工程での効

効率化の見通し



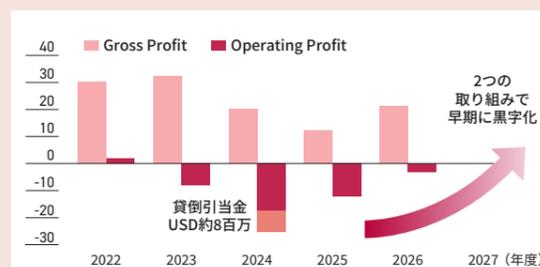
※2025年度より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しております。過年度実績も含め当該変更による組替え反映後の概算値となります。

率化を推進します。これにより、固定費、変動費を抑制し無駄を排除しながら収益性改善に取り組み、今後の黒字転換を確実に実現します。

トップラインの改善

案件管理の徹底や営業組織の活性化を図っています。顧客セグメントごとに優先度やリソースを見極め、対象をライフ&ウェルネス市場へも広げ、市場成長を取り込もうとしています。スティックパックなど利便性の高い包装にも対応しています。

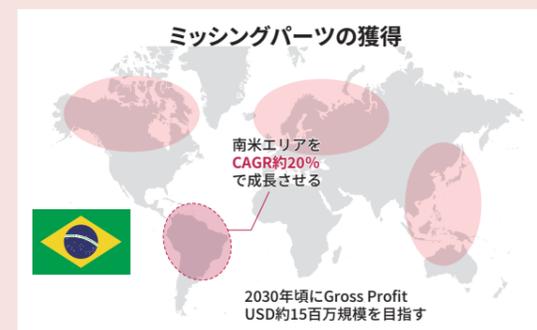
Nutrition事業の収益回復(USD百万)



成長へ向けた具体的施策

サプライチェーンでの取り組み強化 (Aplinova社買収で南米進出)

グローバル大手の顧客が南米市場での展開を進めるなか、ブラジルのAplinovaが現地窓口となることで、Prinova取り扱い品の採用が拡大、ブラジルでの



事業展開が進んでいます。Prinovaグループは2025年4月にブラジルの食品素材商社Aplinovaを買収し、グローバルサウスへの展開を本格始動しました。今後は、1,000社を超える既存の顧客基盤を活かし、2030年には売上総利益約20億円規模の達成を目指します。

プロダクトポートフォリオの拡充

製造技術を生かした独自製品の研究開発にも注力しており、ラインナップの拡充が商社業の数量成長およびマーケット拡大へも繋がっています。各拠点の連携を深め、ユニークでイノベティブな製品の創出を加速させていきます。

NAGASEグループでの連携

ナガセヴィータの酵素製品を、Prinovaを通じてグローバルに展開するなど、グループ連携によって販路拡大をはじめとするシナジーが生まれています。今後も一層の連携を通じて、フード分野におけるグローバル展開をさらに加速させていきます。



製造機能 ライフサイエンス

ナガセダイアグノスティックス株式会社発足

長瀬産業は、ライフサイエンス分野における製造機能の強化を目的として、2025年7月、旭化成ファーマ株式会社の診断薬事業等を承継したナガセダイアグノスティックス (NDX) をグループに統合しました。診断薬、診断薬用酵素およびその他ライフサイエンス原料の開発、製造および販売を行います。

診断薬事業

診断薬は、日常的な健康診断や疾患の診断・治療の効果をモニタリングするために体液(血液、尿など)の分析に使用される測定試薬で、医療機関などで広く利用されています。診断薬用酵素は、診断薬の原料として、血液などに含まれる特定の物質(化学成分、タンパク質、代謝産物)と反応して光学的な信号に変換・増幅することにより、目的とする物質の濃度を精密に測定する役割を果たします。

人と技術の交流でシナジーの基盤をつくる

NAGASEグループでは、統合の真の目的であるシナジーを発揮するためには、新会社の事業を知り、人を知ることが不可欠だと考えています。統合初日には、製造開発拠点である静岡県伊豆の国市の大仁地区でキックオフセレモニーが行われ、約200人の従業員が参加しました。また、長瀬産業の東京本社で7月に開催されたグループ社員交流イベントでは、NDXの牧瀬弘直社長が同社の事業と社員を紹介し交流を深めました。



ナガセダイアグノスティックスの独自性



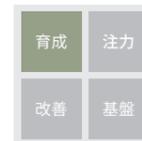
薬「ルシカ® MI」も製造販売しています。

診断薬事業の強みとグループ成長への貢献

NDXは、血糖、脂質、腎機能、肝機能など多様な分野で使用される診断薬用酵素の開発・製造・販売を行い、独自の微生物培養技術等による多彩な酵素製造に強みを持っています。また、NAGASEグループはバイオ関連事業の中核製造会社であるナガセヴィータを中心に、産業用酵素や酵素反応物の開発・製造・販売を手がけ、幅広い業界に製品を提供してきました。今後は、NDXの診断薬酵素の製造技術や応用ノウハウを、NAGASEグループの既存事業と組み合わせることで技術的シナジーを創出するとともに、NAGASEのグローバルネットワークを活用して、成長が見込まれるインドや東南アジアの医療・ヘルスケア市場への展開を加速します。

独自の酵素法を用いた体外診断用医薬品

NDXでは、独自の酵素法を用い、血糖の管理指標であるグリコアルブミン (GA) の測定試薬「ルシカ® GA-L」を開発し、2004年より製造販売しています。また、2022年には、より医療現場等での信頼が高いGA常用参照標準物質対応試薬として「ルシカ® GA-L2」を発売しました。加えて、空腹時血糖だけでは判らない『耐糖能異常』をスクリーニングできる検査薬として、尿を検体とするミオイノシトール測定試



新規エリア グローバルサウス

インド、インドネシア、メキシコ、ブラジルを、今後の成長を見込む新規エリア(グローバルサウス)として位置づけ、人的リソース投下を加速し、次の基盤の強化に努めています。

グローバルサウスにおける直近の取り組み

インド		モビリティ、ライフアンドヘルスケア製品、半導体、スマートフォンなどの市場拡大
インドネシア		人口増加に伴うフード(食品素材)分野の市場開拓
メキシコ		モビリティ分野における現地での製造機能の強化 中国→メキシコなど海外拠点同士での人材交流による新規事業の創出
ブラジル		農業分野における自社商品の展開



成長著しいインドでともにチャンスを掴む頼もしいパートナーへ



Nagase India Pvt. Ltd.
CEO 大岐 英祿

近年、インドは人口増加や国際情勢の影響を受けて市場が急速に成長しており、自動車、食品をはじめあらゆる業種の日系企業の進出が進んでいます。今後は半導体分野の活性化も見込まれています。今年60周年を迎えたNAGASE Indiaは、現地で築いたノウハウやネットワーク、長年勤務する現地の優秀なスタッフなどの強みを一層発揮し、バックオフィス構築などの支援を通じて異なる文化やビジネスカルチャーのなかで挑戦するお取引先様の頼れるパートナーでありたいと思っています。競争力の高いインド素材を活用したビジネスも展開していきます。

合併会社設立によるコネクタ事業の展開

長瀬産業は2025年3月、日本航空電子工業株式会社 (JAE) と、インド市場での二輪・四輪向けUSBチャージャーやコネクタの販売拡大を目的とし合併会社を設立しました。世界トップレベルの市場であるインドでは国策としてEV化が加速しており、市場のさらなる成長が見込まれます。NAGASEの現地でのノウハウやネットワークを基盤に、自動車用コネクタ／ハーネスをグローバルに提供する JAE とともにビジネスを展開し、顧客サポートの強化、現地パートナーとの協業による生産体制の構築、サプライチェーンの強化を図ります。

高付加価値な樹脂販売ビジネスの拡大

これまでASEANや中国でリードしてきた樹脂事業をインド市場に本格的に展開することを目的に、2025年6月、グレーターチャイナにおけるプラスチック製品の主要販売会社である台湾の長華塑膠股份有限公司 (NWP) と、Nagase India (NIN) が合併会社「NAGASE WAHLEE INDIA PRIVATE LIMITED」を設立しました。

中国・台湾系企業の顧客ニーズや商習慣に精通している NWP と、インドの法規制やレギュレーション対応に知見を持つ NIN の強みを掛け合わせ、インドでの新たなビジネスのニーズを細やかに拾い上げることでビジネス機会を最大化します。



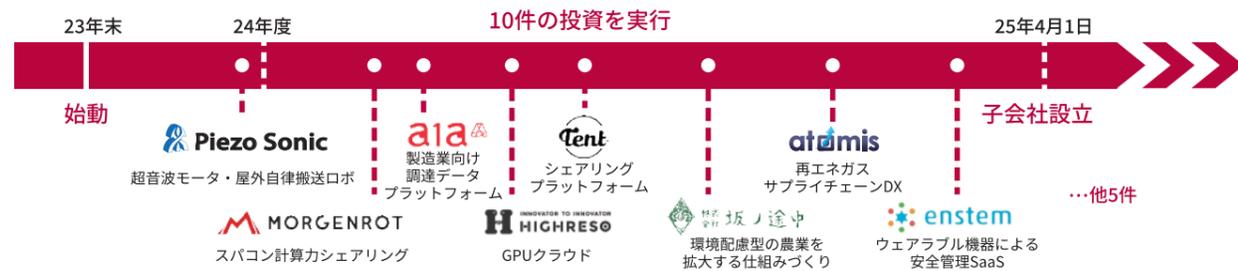
次世代事業開発 コーポレート・ベンチャー・キャピタル

CVC投資を活用し、新たなビジネス領域・技術の獲得へ

新しい事業発想を持つスタートアップ企業への投資活動を高度化し、最先端の技術、ビジネスモデルなどのナレッジを広く獲得するため、CVCの取り組みを2023年度より開始しました。本取り組みは、2025年4月に設立したNagase Future Investmentsが主導し、ビジネスインテリジェンス機能として次世代事業創出のための基盤づくりを推進しています。NAGASEの既存事業と異なる領

域において、2024年度末までにスタートアップ企業への出資を10件実施しました。

例えばGPUクラウドサービスを運営する株式会社ハイレゾや、環境配慮型の農業を普及する株式会社坂ノ途中、ウェアラブル機器を用いた生体データ事業を提供する株式会社enstemなど、次世代事業を担う企業への投資を進めています。NAGASEは現在も、CVCを通じた出資・提携活動を継続しており、新たな事業創出に向けた探索を加速しています。



研究開発 バイオ

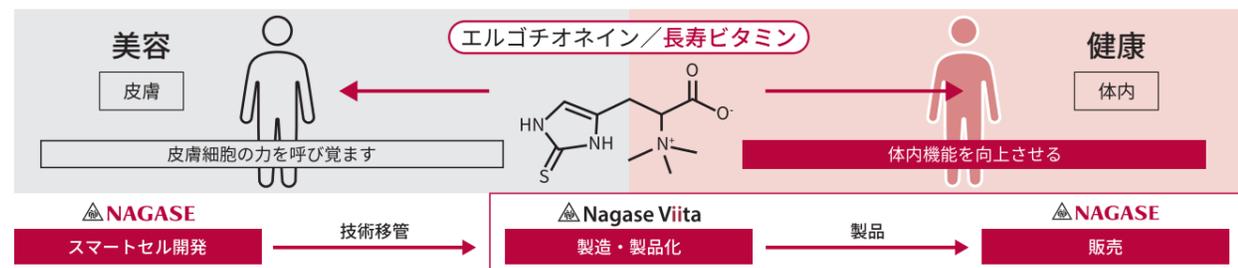
“長寿ビタミン”と呼ばれるエルゴチオネインの事業化へ

キノコなどに微量に含まれる「エルゴチオネイン (EGT)」は、次世代の機能性素材として、神経変性疾患(アルツハイマー病やパーキンソン病)、うつ病、紫外線による肌老化(シワ・シミ)、白内障、糖化ストレスなどの症状に対する抑制などさまざまな作用が期待されています。EGTはヒト体内で産生することができず、また加齢/ストレスとともに減少していきます。EGTの事業化に

おいては、天然抽出では高純度化のハードルが高く、化学合成の場合も環境負荷が大きいことが課題でした。

2020年、「ナガセバイオイノベーションセンター」がスマートセル技術(細胞が持つ物質生産能力を人工的に最大限引き出した生物合成技術)を用いてEGTの生産性を従来比の約1,000倍に高めることに成功しました。

現在、化粧品分野での上市を目指して取り組んでおり、将来的には食品への展開も視野に入れて、世界の健康寿命の延伸に貢献していきます。



改善事業への取り組み



将来の事業成長に向け、撤退損失を早期に確定

将来的な損失額を可能な限りゼロに近づけるべく取り組んでいます。不採算の事業子会社および減損懸念の資産については、撤退・売却の可能性も排除せず、損失削減に向けた具体的なアクションプランを策定し、実行しています。

また、会議体を活用しコーポレート部門と事業部門が相互に連携しモニタリングの強化を図っています。減損懸念のある固定資産および投資有価証券について、リストアップの基準を設けることで、モニタリング対象先を明確化しています。そのうえで、主管組織がその対象先に関する対応策やプランを策定し、コーポレート部門に提出します。このようなモニタリングプロセスを設け運用することで、減損発生 of 未然防止に努めています。

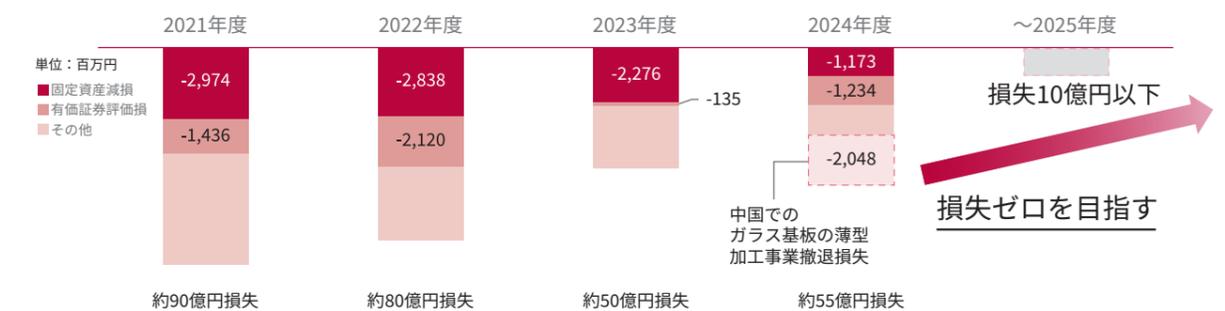
これまでの撤退案件

2024年度は下表のとおり3つの事業で整理撤退を決定、実行しました。これに加え一部有価証券の評価損、アメリカでののれん等の減損を合わせて約55億円の減損を計上しました。

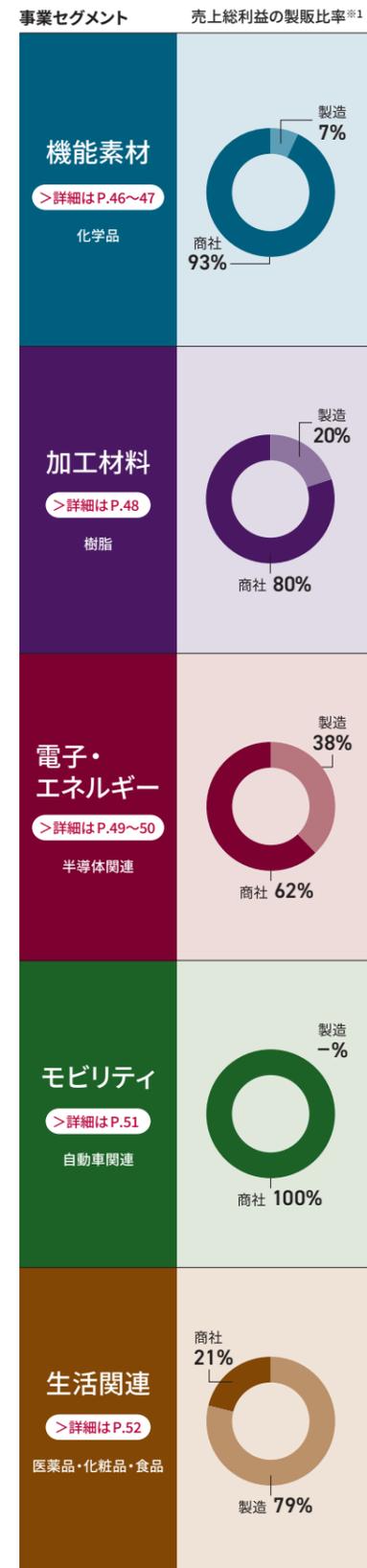
2025年度は損失10億円以下を目指し、改善を進めます。2025年内には、経営資源の最適配分の一環として、光学デバイス向け機能性材料の開発・製造を行う Inkron Oyの全株式を台湾のエレクトロニクス部品製造会社に譲渡予定です。

改善対象と取り組み	2024年度の撤退案件	
1. 事業子会社の営業損失および関連会社の持分法損失 早期に改善プランを策定し、実行。改善が見込めないものは撤退検討	堺ディスプレイプロダクト(株) オンサイト工場 液晶ディスプレイ市場の減速 供給先の堺ディスプレイプロダクトの閉鎖	2024年撤退決定 閉鎖
2. 減損損失懸念資産 減損リスクのある資産に対するモニタリングを強化し、減損を最小化	カラーフォーマーの米国事業 市場の供給過多の状況に伴う価格競争激化 感熱紙市場の減速	2023年撤退決定 清算・撤退
3. 不採算取引 全件リストアップしモニタリング。改善が見込めないものは商権返上	中国でのガラス基板の薄型加工事業 台湾で加工事業を開始し、その後中国へ事業移管したものの、内製化の進展、価格競争激化	2020年撤退決定 撤退後処理決定

事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模



セグメント一覧 (2025年3月末時点)



事業部の取り組み

機能化学品事業部
 コーティング、インク、接着剤、顔料、ウレタン、トナー、テキスタイル、製紙、液晶業界等の幅広い事業領域に対し、高性能性素材を提供しています。また、「環境」「バイオ」をキーワードに、需要が急増しているサステナブルな商材の展開にも注力し、製造・研究・加工などのグループ機能を駆使して、顧客ニーズに応えています。

スペシャリティケミカル事業部
 半導体用材料、油剤・界面活性剤、有機合成、石油化学、樹脂などの領域を中心とした化学業界に対して、ケミカル原料、装置、加工サービスなどを提供しております。国内外における多くのお取引先とのネットワーク、および1万品目を超える製品の取り扱いから得られた知見をベースに、化学業界におけるサプライチェーンの役割を担うとともに、ユニークな技術や製品に着目し、新規の事業開発を通じて、世の中やお客様のお困りごとの解決に貢献します。

ポリマーグローバルアカウント事業部
 アジアパシフィックにおける充実した販売網・経験豊富なナショナルスタッフ体制のもと、グローバル企業と連携し、OA機器や電気・電子業界を中心に幅広い産業に合成樹脂を販売。リサイクル素材やバイオマスプラスチックなどの環境に優しい素材やサービスの提供といった環境配慮型ビジネスにも注力しています。

エレクトロニクス事業部
 シリコンウェハー、半導体、電子部品、ディスプレイ業界向けに、各種機能性材料およびそれらを構成する素材の提供に加え、パートナー企業と市場・顧客ニーズに合致した商品開発に取り組んでいます。

先進機能材料事業部
 重電・弱電、モビリティ、環境・エネルギー、半導体（フォトリソグラフィ、封止材）、ディスプレイといった重点分野で、配合設計技術、コンパウンディング技術、精密洗浄技術、表面処理技術、感光性樹脂設計技術を基に開発したナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂、現像液、剥離液の回収リレーミング、3Dプリンティング用高機能材料などを国内外で展開しています。

モビリティソリューションズ事業部
 自動車、二輪車、農機、建機、航空機など、モビリティ業界のニーズを捉え、新技術のイノベーションを追求し、多様なソリューションの提供を通じて、安全・安心・快適なモビリティ社会の実現に貢献します。

ライフ&ヘルスケア製品事業部
 医薬、医療、化粧品、ハウスホールド、食品（加工食品、ニュートリション分野）を対象の市場として、グループの製造・加工・調達・物流・研究・アプリケーション開発、およびレギュラトリー機能による幅広いソリューションをグローバルに提供し、健康で豊かな生活への貢献を追求しています。

主な取り扱い製品・サービス

機能化学品事業部
 樹脂原料、樹脂・溶剤、顔料および分散体、染料、色素、各種添加剤、ウレタン原料、離型剤、導電材料、機能性フィルム、粘着剤、衛生材料、ミキシングコンシエルジュ™、分散加工タータルコーディネート、CASE向け原料検索サービス、化学品AI共同物流マッチングサービス、化学品業界オリジナル安全VRゴーグル

スペシャリティケミカル事業部
 有機化学品、無機化学品、高純度薬品、各種添加剤、樹脂、バイオ製品、特殊エポキシ、特殊アクリルゴム、ポリマーフィルター、酵素、水処理装置、MOF、受託製造マッチングサービス

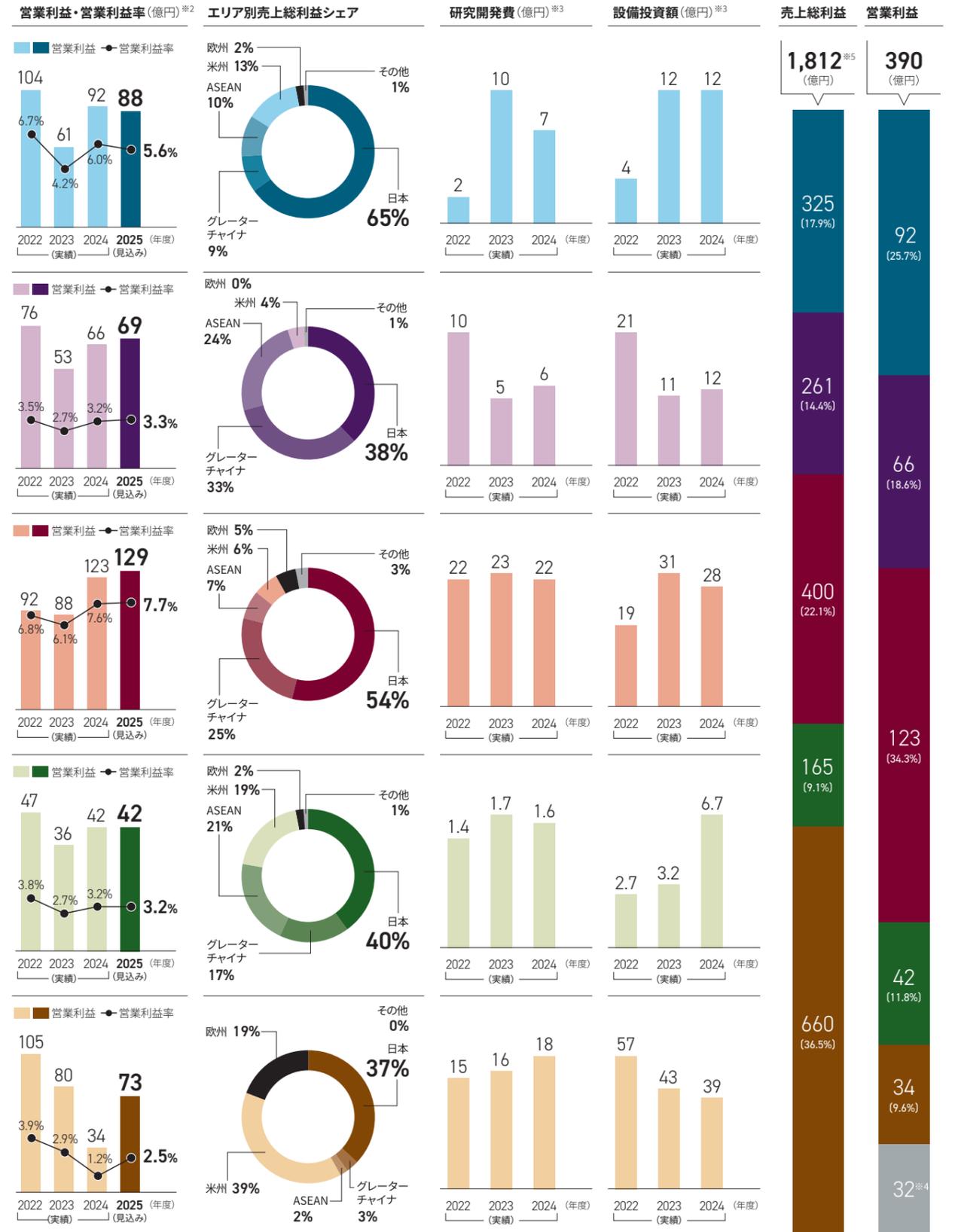
ポリマーグローバルアカウント事業部
 エンジニアリングプラスチック、汎用プラスチック、包装資材、その他プラスチック関連製品、およびサービス

エレクトロニクス事業部
 精密研磨材料、ディスプレイ用光学材料、タッチパネル部材、機能性塗料、導電・絶縁材料、接着・封止材料、高耐熱フィルム、光学レンズ、高周波デバイス、低誘電材料、センシングモジュール、XR用光学材料、半導体/電子デバイス関連装置

先進機能材料事業部
 変性エポキシ樹脂および関連製品、フラットパネルディスプレイ・半導体用フォトリソグラフィ材料

モビリティソリューションズ事業部
 各種樹脂、機能性塗料、接着剤、軽量化部品、加飾部品、HMI部品
 CASE関連：xEV関連部品、熱対策部品、電池材料、各種センサー、LiDAR関連部品、自動運転関連技術

ライフ&ヘルスケア製品事業部
 医薬品（原薬、添加剤、中間体、その他原料）、体外診断薬、化粧品・ハウスホールド製品用原料（有効成分、添加剤、乳化剤、香料）、食品素材（ニュートリション素材、トレハ®等の機能性糖質、配糖体、酵素等の加工助剤）、プレミックス（OEM、ODM）、農業・水産・畜産関連材料、エンドトキシン除去サービス



※1 売上総利益の商社にはその他・全社、連結調整による影響を含みます。
 ※2 2025年3月期より、報告セグメントの業績をより適切に管理するため、全社共通費用の配賦方法を一部見直し、従来「その他」に含めていた全社共通経費の一部を各報告セグメントに配賦しております。2022年度の数値は配賦前、2023年度、2024年度の数値は配賦後に基づくものです。

※3 2023年10月に実施した事業部統廃合に伴う事業区分変更後の数値です（研究開発費および設備投資額の2022年度実績を除く）
 ※4 ■その他・全社共通：報告セグメントに含まれない全社・事業セグメント、セグメント間取引消去等が含まれます
 ※5 2026年3月期第1四半期より、Prinovaグループにおいて製造原価と販売費及び一般管理費の区分を一部変更しておりますが、2025年3月期の数値は当該会計方針の変更を遡及適用する前の数値であります。
 (注) 売上総利益と営業利益のセグメント別構成比の計算には、その他・全社共通は含まれません。

NAGASEのユニークな機能

NAGASEは「商社」「製造」「研究開発」の機能を掛け合わせることで他にはないユニークネスを提供しています。



商社 製造 研究開発

機能素材セグメント



機能化学品事業部

機能化学品事業部長 樋口 増生

取り扱い製品例

- 自動車や建築用の塗料原料
- 衣服向け染料
- トナー原料
- TVスマホOA等のディスプレイ向け材料等

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- バイオ由来・高吸水性ポリマー × 大人用紙おむつの共同開発
- 化学品AI共同物流マッチングサービス
- 攪拌工程を可視化するミキシングコンシェルジュ™ (P.59)

！ 成果 デジタル活用

ユニークな技術を顧客・業界のニーズにつなげるサービスモデル

ものづくりのニーズが複雑化するなか、お客様への原料提案のみにとどまらず、DXを活用したサービスモデルの事業化を推進しています。例えば、化学品AI共同物流マッチングサービスでは、複数企業間の物流を最適化し、物流問題やGHG削減に貢献しています。また、「ミキシングコンシェルジュ™」サービスは、ものづくりに不可欠な液体の攪拌工程を可視化し、生産性向上や技術継承を支援しています。さらに、CASE分野※に特化した原材料検索サービス「Chemical Search」の提供も開始しました。今後も、ユニークな素材や技術、デジタル知見を融合し、化学業界



の持続的な成長を支えていきます。
※塗料 (Coatings)、接着剤 (Adhesives)、シーラント (Sealants)、エラストマー (Elastomers)。

？ 課題 不採算事業の整理および成長戦略

製造機能の統合による収益力の向上

カラーフォーマー事業においては、米国事業からの撤退に加え、日本の製造拠点における不採算取引の見直しや効率化を進めた結果、黒字化を達成しました。また、2025年4月には、ケミカルの製造機能強化を目的として、ナガセヴィータの機能性色素事業(藤田工場)をナガセケムテックスの岡山事業所として統合し、福井山田化学工業を同社の子会社としました。今後は、技術融合による開発力強化や生産効率化、拠点戦略の一環であるBCP対応の推進、拠点間の人材流動による人財育成の効率化に取り組み、グループ全体での収益基盤の強化と持続的な成長を目指します。



困ったらNAGASEに聞こう！ お取引先の声 ナトコ株式会社

VRを活用した没入型教育コンテンツで労災ゼロを目指すパートナーに

当社では、化学品業界において課題となっている労災対策として、長瀬産業が販売する労災体験VRゴーグルを導入しました。従来実施していた座学研修の事例紹介に加え、VRによる没入型教育を加えることで、異業種からの転職者や新入社員を含む受講者に対して、「体験」と「丁寧な解説」を通じた理解促進と、安全意識の定着に効果を発揮しています。日本塗料工業会監修による業界特化型、かつ、集合研修にも対応できる機能性の高さから実践的で質の高い教育コンテンツだと実感しています。労災ゼロは、生産活動の持続性や、お客様の安心、従業員の安全に直結する重要なテーマですので、まさに「困ったらNAGASEに聞こう」であり、これからもユニークな提案に期待しています。



ナトコ株式会社 生産部 群馬工場 工場長 木暮 友昭 様
長瀬産業株式会社 機能化学品事業部 トータルソリューション部 山田 純平

商社 製造 研究開発

機能素材セグメント



スペシャリティケミカル事業部

執行役員
スペシャリティケミカル事業部長 栗本 賢一

取り扱い製品例

- 生成AI用サーバーに使われる半導体用向け原材料
- 3Dプリンタに使われるインクの原材料
- 衣料用繊維や、自動車用金属部品の製造・加工向け油剤原材料
- EV用の電池部材向けポリマーフィルター

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- 環境ソリューション：工場排水処理における運転管理やコスト削減
- フロー合成：バッチ法による有機合成反応の危険性・作業環境性・生産効率性の改善
- 半導体事業の提案：地政学リスクに対応する化学品原材料調達（マルチソース化、受託生産）

！ 成果 ROIC経営

ROIC向上へのモニタリングの体制構築

ROIC経営の浸透を図り、成果にこだわりました。新たに企画室を設置し、①機能に見合った利益の追求、②不採算ビジネスの整理、③長期在庫削減の3テーマについて、組織全体でモニタリングを実行した結果、いずれの項目においても大幅な改善を達成することができました。2025年度はモニタリングの継続に加え、連結先と密なコミュニケーションを図り、グループ丸となって改善活動を推進していきます。また、ROIC経営の延長線上として、社員一人ひとりの生産性向上に向けた取り組みを進めています。具体的には事業部内教育体系の見直し、生成AIやRPAを活用した業務効率化に着手しています。昨年の課題「事業モデルの進化」への打ち手として、事業ごとの5年後の成長シナリオを策定しました。商社事業では半導体関連事業のグローバルでの方向性の策定、リソース拡大を進めました。製造事業においては、グループ会社とともに成長戦略を策定し、PDCAサイクルを実行中です。

？ 課題 人財育成

個人・組織の課題を認識し行動に移せる組織づくり

当事業部では、社員が個人・組織の課題を認識し、自発的・継続的な成長を促せるような仕組みづくりを進めています。2024年度から継続して新しい取り組みを実行しており、事業部長との対話会などを通じて、課題について討議する場を設けています。課題への対策案の具現化として、若手社員に対するパディ制度、モチベーション向上と組織間の健全な競争意識を醸成するアワード制度等を試行しています。また、ビジネスパーソンの基礎知識習得のための外部研修受講等も体系化し、能力開発を仕組み化していきます。

商社 製造 研究開発

加工材料セグメント



ポリマーグローバルアカウント事業部

ポリマーグローバルアカウント事業部長 吉田 公司

身の回りの最終製品例

- OA機器
- ノートパソコン
- スマートデバイス
- ゲーム機
- 化粧品容器
- 食品包材

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- 資源循環型社会の実現に貢献するポストコンシューマーリサイクル
 - カーボンニュートラル社会の実現に貢献するバイオマス由来プラスチック
 - 人と環境の安全性確保に貢献するPFAS^(※)代替素材
- ※主に炭素とフッ素からなる人工化学物質の総称で、水や油をはじく特性を持つ

！ 成果 デジタル活用×経営スピードアップ

デジタル基盤を活用した意思決定プロセスの高度化

グローバルでのものづくりのあり方が多様化するなか、営業担当者の経験や感覚のみを頼りに生き残れる時代ではないという危機感から、デジタルを駆使した経営判断の仕組みづくりに取り組んできました。販売実績データ、顧客動向、経済見通しなどの分析に基づき、意思決定や成長戦略の見直しに活用しています。具体的には、新システムの運用を開始し、国や地域をまたぎ、分類が複雑なビジネス属性ごとの収益構造をより精緻に把握しています。この結果、市場のトレンド変化に応じた、経営戦略や人材配置が行えるようになりました。多軸・多面的な分析が、収益性の着実な向上に寄与しています。今後もデジタル基盤を活用し、ROIC最大化と事業価値の持続的な向上を目指します。

？ 課題 後継者育成、人財育成

グローバル再編に対応する人財戦略と地域連携の強化

大手サプライヤーを中心とした業界再編や、サプライチェーンの多様化・多極化が加速するなか、日本主導による従来型の経営体制や、日本発のマネジメントモデルには限界を感じています。グローバルで進む業界再編の潮流を見据え、的確に対応するためには、事業連結の視点を持った人財の育成と、人材ネットワークの構築が必要です。例えば、大きな成長を見込むインド市場では、とくに中国から移管される台湾系・中華系ビジネスの獲得が重要と考え、2025年6月に、NAGASE WAHLEE INDIAを設立しました。



今後、当事業部におけるインドビジネスは台湾の現地スタッフを中心に、台湾・中国・ASEANと連携し、成長戦略を展開していきます。



困ったらNAGASEに聞こう！ お取引先の声 三幸製菓株式会社

経営課題をともに見つめ伴走するパートナーとして期待しています

当社は、2024年、『食と健康』に根差す企業として持続可能な社会の実現に向けた取り組みを実践することを宣言しました。そのなかでも、温室効果ガスの削減・廃棄物の削減に対応しながら排水処理設備にかかるコストを削減したいという課題を抱えていたところ、長瀬産業様からターボブロワと汚泥脱水機の導入や運転管理方法の最適化の提案を受けました。導入実験の結果、消費電力の30%以上の削減と脱水ケーキの含水率削減・安定化を達成し、排水処理にかかるコスト削減も実現。その間、担当者の皆さんの迅速な対応や、議論に前向きな姿勢、豊富な機能とアイデアに心強さを感じていました。事業拡大や業務効率化に加えて環境課題に向けてともに成長するパートナーとして長いお付き合いを期待します。



当工場で製造している製品「雪の宿」



三幸製菓株式会社
生産部生産課 課長
永岡 侑真 様



困ったらNAGASEに聞こう！ お取引先の声 石川樹脂工業株式会社

NAGASEの一気通貫な樹脂ソリューションで新製品を開発

当社は自社食器ブランド「ARAS」で、「強く、美しい、カタチ」というコンセプトに加え、「長く使い続けてもらう」という価値を追求し、物性や成形面で高い要件を満たす新材料を模索していました。こうしたなか、NAGASEの豊富な素材提案力と、ナガセアプリケーションワークショップの技術者による迅速な処方設計力、試作設備を活用した柔軟な材料開発力が大きな力となりました。材料検討では、NAGASEからコンパウンドの提案を受け、樹脂処方設計から試作、物性評価、量産化と安定供給に至るまで、一気通貫の支援を受けました。その結果、短期間で開発から製品化を実現しました。「深皿スプーン」では樹脂製とは思えない重量感と高級感を、「カレースプーン」では究極に薄い0.5mmの縁を実現するなど、意匠性と機能性を両立した製品を展開しています。今後もNAGASEと新たな製品開発展開を推進していきたいと考えています。



「ARAS」深皿スプーンカトラリー



石川樹脂工業株式会社
専務取締役
石川 勤 様

商社 製造 研究開発

電子・エネルギーセグメント



エレクトロニクス事業部

エレクトロニクス事業部長 佐藤 一征

身の回りの最終製品例

- 半導体
- スマートフォン
- ディスプレイ

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- 低消費電力：パワー半導体・新規ディスプレイ向け材料
- 熱対策：放熱・断熱材料

成果 成長戦略

地域ニーズに応じた設備投資と人材配置を加速

昨年度は、マレーシアのバンピングラインが稼働を開始し、売上に貢献しました。半導体の積層化技術に注目が集まるなか、バンピングサービスへの需要は引き続き高まっています。今後も、設備拡充や開発を強化し、事業拡大を目指します。また、エリア戦略では、各地域における市場動向を踏まえた人材配置を推進します。米国でのマーケティング体制強化、インドへの人材派遣、海外現地法人スタッフの出走をはじめとする、グローバルな対応力を活用して地域ごとのニーズに応えることで、お客様の課題解決と事業成長の加速を目指します。



マレーシアのバンピングラインを稼働させたグループ会社 PacTech

課題 デジタル+現場力強化（グローバル）

デジタル活用と現場力強化による成長体制の構築

当事業部は引き続きデジタルツールの活用を課題として掲げています。2024年度推進したCRM利用促進に加えて、2025年度は組織を超えた情報連携を目的に、データの活用と分析を進めます。社外向けには、MAツールの活用や、Web展示会も行う予定です。オンラインでの顧客接点を広げ、持続的な事業開発機会の創出を目指します。現場力の強化では、「日本⇄海外」という軸に加え、「海外⇄海外」の連携も強化しています。各地域で培った知見を迅速に共有する体制を構築し、現場力を軸にした対応力の強化により、さらなる成長を目指します。



困ったらNAGASEに聞こう！ 社員の声

台湾現法×日本駐在が担う、半導体分野におけるグローバル調達支援

国内半導体関連のお客様に対する取引体制構築のため、台湾現地法人から熊本に駐在しています。台湾系サプライヤー様が日本に進出する際、輸出入や化学品の取り扱い・商習慣などでお困りになることが多くありました。そこで、NAGASEが持つ業界・材料取扱いの知見に加え、危険物や高圧ガスに関するライセンス、法規対応のノウハウ等を駆使し、サプライヤー様の日本市場進出を成功へと導いています。お客様から直接ご相談をいただくことも多く、ケミカル商社としての長い歴史で培った総合力と広範なネットワーク、そして何よりもお客様の課題を解決したいという強い想いこそが「困ったらNAGASEに聞こう」と言われる所以だと実感しています。



台湾長瀬股份有限公司 Jack Lee

商社 製造 研究開発

電子・エネルギーセグメント



先進機能材料事業部

執行役員 先進機能材料事業部長 田島 竜平

取り扱い製品例

- 生成AIやスマートフォンに使用される最先端半導体用封止材
- パワー半導体用液状封止材
- スマートフォンを含めた通信用デバイス向け液状封止材

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- AIサーバーの高速化/低消費電力化：最先端半導体向け液状封止材料
- 環境負荷低減：薬液リサイクル事業（現像液、剥離剤）

成果 成長戦略

対話と事業投資を通じて顧客課題へ一層の貢献

2024年度は生成AI用最先端半導体パッケージ向け液状封止材料(LMC)の販売が大きく成長しました。さらにはグループ製造会社のナガセケムテックスとともに継続して国内外のお客様の課題、特にチップレット化に伴う半導体パッケージの複雑化によるさまざまな技術的課題解決に向けた提案をし、最終的に次世代2.XDパッケージ向け液状封止材の量産化を実現しました。

また、かねてより合併会社SN Techを設立して現像液リサイクルのビジネスを進めてきた米国SACHEM, Inc.のアジア事業を買収しました。これにより性能や品質、環境など幅広い面で貢献し、一層半導体業界の成長に寄与する取り組みを強化していきます。



現像液(TMAH)貯蔵タンク

課題 経営スピードアップ、人材育成

環境変化に対応する組織と人材の成長

ナガセケムテックスの半導体用液状封止材料が使用されている生成AI分野においては、データセンター市場の成長のみならず、米国トランプ政権による影響により、半導体市場を取り巻く環境が絶えず変化しています。それに伴い当事業も従来以上にスピーディな経営判断が求められています。2024年度は、本事業における一層の人材強化を進め、全員参加で市場におけるお客様の潜在的課題を見出し、前工程/中間工程/後工程それぞれに合わせた製品/ソリューションのタイムリーな提供に尽力してきました。

今年度も引き続き、製造機能の極めて高い“技術力”、商社機能として付加価値の高い情報を有した“営業力”により、半導体産業のフルバリューチェーンへ大きな貢献をもたらす存在であり続けることを目指します。



困ったらNAGASEに聞こう！ お取引先の声 SACHEM, Inc.

NAGASEは未来を託した信頼できるパートナー

半導体ケミカル事業の更なる成長を目指し、中国にある最先端の工場を含むアジア全事業をNAGASEに売却しました。その決断に至るまでには長く議論を重ねましたが、NAGASEは当社にとって唯一合併を設立した、DNAを理解しあう長年のパートナーです。お互いのDNAや技術の融合により、我々が託したアジア事業の更なる進化、ひいては半導体業界におけるさらなるリーダーシップの発揮が期待されます。従業員の卓越した技術力、知識、経験に加え、世界中に広がるネットワークを活用し迅速に対応する力を持つNAGASEと、他地域を含め良好な協力関係を継続してまいります。



SACHEM, Inc. CEO John Mooney 様

商社 製造 研究開発

モビリティセグメント



モビリティソリューションズ事業部

執行役員
モビリティソリューションズ事業部長 松岡 大治

身の回りの最終製品例

- 自動車
- 二輪車
- 鉄道車両
- 建機
- 農機

社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- 電動化シフト：車両のxEV化に伴うバッテリー、インバーター、モーター向け部材
- 環境対応：リサイクル素材やバイオ由来原料を含む低環境負荷マテリアル
- 燃費向上：車載部品の軽量化技術

成果 デジタル活用

ソリューションブランド「NAGASE Mobility」を通じたコミュニケーション強化

当事業部では、電動化部品やサステナビリティ素材など多様な製品を扱っていますが、特に海外では「限定的な商材」を扱う商社と見られることがあります。そこで、ソリューションブランド「NAGASE Mobility」を立ち上げました。多様な技術・製品・ネットワークを融合させた高度なソリューションを提供できるパートナーとしてお客様への認識を拡大し、「困ったらまずNAGASEに相談しよう」と思っただけの存在を目指します。また、2024年度の課題であったデジタル活用においては、メルマガ配信やWebサイトの多言語展開、SNSの運用を開始し発信を強化しています。多言語・多チャンネルで、多くのお客様に価値を届けていきます。

課題 ROIC経営

在庫適正化によるROIC経営

持続的な収益性と資本効率の向上に向けて、低利益率ビジネスの見直し、受発注システムの構築、生成AI活用に向けた教育など、多面的な取り組みを推進しています。その一環として、2024年度より、ROIC改善策に向けた在庫削減活動に注力しており、事業部長直轄の「在庫適正化プロジェクト(PIO)」を立ち上げ、グローバル規模での在庫管理および発注管理の仕組みづくりに着手しました。2025年度末の、「デッドストックゼロ」・「長期在庫の最小化」・「在庫水準の適正化」を目標に掲げています。長期在庫のモニタリングによる早期削減、ユニットごとの発注ルールの特長文化を通じ、健全かつ効率的な在庫適正化に取り組んでいます。



NAGASE Mobilityのロゴ



公式Webサイト



公式Facebook



困ったらNAGASEに聞こう！ お取引先の声 JAE Electronics India Pvt. Ltd.

インド市場での成長を見据え、JAEとNAGASEが挑む新たなステージ

当社は、2025年に設立した日本航空電子工業(JAE)と長瀬産業の合併会社として、インド国内における二輪・四輪向けコネクタの販売を開始しました。長瀬産業の持つ現地市場に根差した知見、広範なネットワーク、倉庫機能を含む事業インフラを高く評価し、共に歩むことを決断しました。現在、JAEが設計・品質保証・生産管理を、長瀬産業が販売・調達・物流を担うことで、両社の強みを融合させた体制を築いています。今後は、現地生産体制の拡充やサプライチェーンの強化にも取り組み、さらなる成長を目指します。急速に進化するインド市場において、長瀬産業のスピード感とオペレーションの信頼性は、当社にとってかけがえのない支えです。今後もこの強力なパートナーシップをもとに、インドにおける新たな価値創出に挑み続けていきます。



JAE Electronics India Pvt. Ltd. 社長 室賀 裕二 様

商社 製造 研究開発

生活関連セグメント



ライフ&ヘルスケア製品事業部

執行役員
ライフ&ヘルスケア製品事業部長 沖野 研二

身の回りの最終製品例

- 食品
- 医薬品
- 診断薬
- 化粧品など生活や健康に関わる消費財

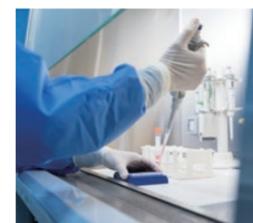
社会や顧客の課題解決に貢献する「製品・サービス」例

- 原料の安定調達・供給、品質リスク管理、在庫・メーカー管理(監査等)
- バイオ技術による代替原料の提案

成果 組織再編

グローバル展開強化に向けた体制整備と重点取り組み

事業の高度化と専門性の強化を目的に、機能別組織内にナガセヴィータなどのグループ特化型組織を新設しました。バイオ領域では研究・製造機能を強化し、エルゴチオネインや低エンドトキシン製品の上市準備を進めています。2024年度の課題であった「海外ビジネスの拡大」に対しては、日本主導でサプライヤー調査を行い、新商権を獲得しました。現地法人は代理店と連携し、複数のソリューションを組み合わせ提案するバスケット型営業に移行しました。2025年度は東南アジアを重点エリアに拡大を図ります。



また、現地法人の体制確認や社内啓発を通じて、レギュラトリ対応も強化しています。今後は医薬品・食品に加え体外診断用医薬品の検証も進めます。

課題 横ぐし

機能別組織への移行と横断的な連携強化

従来の縦割り型の組織では、事業成長やグローバル連携に限界がありました。こうした課題を踏まえ、現在は事業部や拠点を越えた横断的な体制へと移行しています。マトリックス型の組織設計により、機能間の分断を防ぎ、協働を促す体制づくりを進めています。特に海外では人財に限られるため、機能別組織の導入が効果を発揮すると期待しています。また、現在は意識改革や業務の進め方の見直しを進めており、段階的な浸透を図っています。今後は制度の整備と共有・標準化を進めるとともに、グローバルでのM&Aや新商品開発にも対応できる実践型人財の育成と組織づくりを並行して進めていきます。



困ったらNAGASEに聞こう！ 社員の声

医薬品原料の安定供給を支えるグローバル調達体制

COVID-19の影響を受け、医薬品原料の安定供給に対するニーズが高まり、従来の調達先に加えて複数ソースを確保したいという声が増えています。また、薬価制度の影響を受ける国内市場では、よりコスト競争力の高い原料調達も求められています。こうした課題に対し、当社では中国に次ぐ調達先としてインドに注力しています。インド製品は価格と製造力に優れる一方、文化や商習慣の違いにより品質や納期のトラブルも少なくありません。こうしたリスクを軽減するために、現地法人と連携し、安定したコミュニケーションと調達体制を築いています。さらに、NAGASEグループのグローバルネットワークを活用し、各国の展示会や取引先から得た供給情報を迅速に集約し、日本市場を理解した現地メンバーと協力し、柔軟かつスピーディな調達提案を行うことで、お客様の安定調達とコスト最適化の両立を支援しています。



ライフ&ヘルスケア製品事業部 田中 侑平

商社

製造

研究開発

製造機能

ナガセケムテックス株式会社 (NCX)

代表取締役社長 森田 貴之



会社概要

- ・設立 1970年
- ・所在地 大阪府大阪市
- ・売上高 約258億円
- ・従業員 約520名

事業概要

NAGASEグループの中核製造機能として、先端半導体などのエレクトロニクス分野からライフサイエンスなどの幅広い分野で、高機能な化学製品を提供。化学合成・配合設計・加工・評価技術のコア・テクノロジーをもとに独自の“発想力”で技術を深化・融合し、市場のニーズに応じた革新的な製品を生み出している。

経営資源を最大限生かして変化に柔軟に対応する経営を目指します

化学品事業を基盤に、先端半導体分野への注力やライフサイエンス分野・アグリをはじめとする研究開発を推進し、新たな事業の柱の育成に取り組んでいます。生分解性高吸水性ポリマー(SAP)や易解体性接着剤の開発、製造プロセスの改善などを通じて環境負荷低減に貢献し、従

業員一丸となって「ヒトと地球にやさしい化学企業」を目指します。NAGASEグループ内の当社へのケミカル事業集約を受けて、より多彩な技術・ノウハウ・設備・人財などの経営資源を最大限に活かした効率的な運用を図ること

で、変化をチャンスに変える柔軟な対応力を備えた「強く、しなやか」な経営を推進します。



先端半導体
封止材(液状・シート状)、フォトリソグラフィ材料



ライフサイエンス・アグリ
生分解性SAP、低エンドトキシン材料、土壌改良資材



化学品
特殊エポキシ化合物、導電性塗料



ナガセヴィータ株式会社 (NVI)

代表取締役社長 万代 隆彦

会社概要

- ・設立 1932年
- ・所在地 岡山県岡山市
- ・売上高 約350億円
- ・従業員 約800名

事業概要

NAGASEグループにおけるバイオ事業の中核企業。2024年4月にナガセヴィータに社名を変更(旧 林原)。1883年の創業以来培ってきた酵素・発酵技術を活かして、自然由来の原料から多機能素材を開発・製造し、食品、医薬品、パーソナルケア、農業分野などさまざまな市場に製品とソリューションを提供。

微生物や酵素を活用した技術力でサステナブルな社会を実現します

当社は、微生物や酵素の力を活かし、研究開発から製造・販売に至る一貫体制で機能性素材を提供しています。品質・安全性・環境への配慮を徹底することで、社会から高い信頼を得ています。2024年には、EcoVadis社のサステナビリティ評価において、2年連続で最高位の「プラチナ」評価を獲得しました。2025年度は、発売30周年を迎えるトレハロースや、AA2G®など既存製品のさらなる価値づくりの推進に加え、パーソナルケアを中心に新規素材開発に注力します。それを実現するために、生産・研究・事業部の連携強化による組織づくりと、スピード感ある事業展開を行い

ます。パーパスである「生命に寄り添い、人と地球の幸せを支える」の体現を目指し、技術力を軸とした「モノづくり」と「価値づくり」の両輪で、事業の成長を加速してまいります。



食品素材
トレハ®、プルラン、デナベイク® EXTRA



パーソナルケア素材
AA2G®、リセナーレ®、グルコシルナリンギン



医薬品素材
SOLBIOTE®(トレハロースSG、マルトースPH、スクロースSG)

Prinova Group LLC

Chairman 兼 President & CEO 池本 真也



会社概要

- ・設立 1978年
- ・所在地 米国イリノイ州
- ・売上高 約1,996億円
- ・従業員 約1,370名

事業概要

Prinovaグループは、欧米を中心に、ビタミンなどの食品素材の販売、配合品の製造を行っているほか、スポーツニュートリション市場やライフ&ウェルネス市場向けに最終製品の受託製造を手掛けています。世界最大級となる食品素材の取り扱い規模や研究開発力、顧客ネットワーク等を強みに、さらなる成長を目指しています。

豊富な製品知識と研究開発力を強みにサステナブルな成長を追求していきます

Prinovaは豊富な製品知識や垂直統合型のビジネスモデル、顧客ニーズに応じたソリューションを共同開発できる力を強みに、急速な市場変化に対応しています。2025年度はROICをより一層重視し、収益性と事業の強靭性向

上を図ります。安定供給を維持し、消費者ニーズの先を行く革新的なソリューション提供を目指し、NAGASEグループとの連携や人材と技術への投資、サプライヤーとのパートナーシップを通じサステナブルな成長を追求していきます。



米国ユタ州の工場



ソリューション開発



スポーツニュートリション市場向け最終製品の受託製造

東拓工業株式会社

代表取締役社長 中西 俊博



会社概要

- ・設立 1952年
- ・所在地 大阪府大阪市
- ・売上高 約125億円
- ・従業員 約400名

事業概要

工業用・産業用ホース、電線・電力・通信ケーブル用保護管、土木用集排水管、橋梁関連資材など、プラスチック製フレキシブルホース・パイプ等の製造・販売。半導体製造装置の組み込み用ホース、無電柱化事業の地中埋設配管、大雨・洪水対策用の大口径パイプなどインフラを支える製品が国土強靱化計画にも貢献。

特徴ある新技術で、これからも人、社会、街づくりを支えるメーカーであり続けます

当社は産業用ホースやプラスチックパイプを扱う、創業70年超の専門メーカーです。パイオニアの立場を貫き、「品質第一に徹したものづくりで顧客の満足と信頼を得る」を基本方針とし、素材研究から製造装置の設計まで首尾一貫体制で行っています。高品質な製品で、人、社会、街づくりを支えることが使命と考えています。2025年11月には「ナガセルータック株式会社」に社名変更し、グループの製造部門として成長のステージへ進みますが、お客様から信頼を得てきた“トータク”ブランドを基盤に、NAGASEのグロー

バルネットワークを通じて、人と社会の「繋ぐ・守る・拓く」を支えてまいります。安全で動きやすい職場・働き甲斐のある職場づくりにも注力し、世界基準の技術で、パイプ・ホースのリーディングカンパニーであり続けます。



電設パイプ

土木パイプ

工業用ホース

商社 製造 研究開発

研究開発機能

ナガセアプリケーションワークショップ (NAW)

所長 谷口 明広



拠点概要 ・設立 2007年 機能 樹脂、コーティングおよび3Dプリンタ分野でイノベーションをサポートし、ユニークな新技術や新素材の評価・分析、フォーミュレーション開発、新規用途開発を行う。
 ・所在地 兵庫県尼崎市

プラスチック、コーティングおよび3Dプリンタ分野でイノベーションを共創します

商社が運営する研究所ならではの自由な発想を持ったオープンイノベーションラボです。樹脂、コーティング分野において、開発経験の豊富な技術スタッフを有することを強みとし、自由なアイデアで、課題ソリューションを提供、特に近年は、環境課題解決に向けたテーマに注力してい

ます。樹脂素材とバイオのように異領域の技術融合のニーズに応えられるよう対応領域の拡充を図っていきます。NAGASEのネットワークを活用し、ユーザーに最も近いラボ、そしてお客様の開発パートナーとして、グループの技術を結集させたOne NAGASEでソリューションを提案します。

NAW×IFCが目指す連携体制

「Open」「Collaborative」「Speed」をキーワードに、グループ会社であるIFC(下記)のユニークな開発手法・アイデアを取り入れながら、お客様へのソリューション提案力の向上を図っています。さらに、グループが保有する技術を結集させ、提案領域の拡大を目指します。NAWの技術開発力と、営業事業部のマーケティングスキルで、新素材開発からマーケティングまで、NAGASEならではのトータルサポートをご提供します。



NAWの開発事例

IFCとの協業

IFCが3D印刷市場向けに開発した水溶性サポート材の「Aquasys®(アクアス)」の特性を活かし、犠牲層としての新規用途開発を展開しています。

環境や人にやさしい素材の開発

パートナー企業各社と、海洋分解性樹脂を用いた処方・用途開発、食品包材向けフッ素化合物代替提案、シリカエアロゲルを活用したコーティング材開発等にチャレンジしています。



Interfacial Consultants LLC (IFC)

CEO Jeffrey Cernohous



会社概要 ・設立 2014年 機能 先端材料およびプロセス開発、新技術および事業インキュベーション
 ・所在地 米国ウィスコンシン州

NAGASE ONLY戦略で未来を切り拓きます

NAGASEグループの強みの一つは、世界中のパートナーの技術や製品を顧客のニーズとつなぎ合わせ、価値を創出することです。一方で、人工知能(AI)などの新技術の登場に伴い、複雑な情報や関係性が簡素化され、誰でも容易にアクセスできるようになるなかで、私たちはパートナーにとっての存在意義を失っていくリスクがあります。独自

性の高いNAGASE ONLYのソリューションで顧客にとって明確な価値を提供すること。開発スピードを加速させ、グローバルな販売チャネルで商業化する方向へと努力をシフトできれば、組織としての成長、収益性、持続可能性を加速させることができるでしょう。IFCは、この挑戦において皆さんと一緒に取り組めることを楽しみにしています!

ナガセバイオイノベーションセンター (NBIC)

執行役員
センター長 劉 曉麗



拠点概要 ・設立 1990年 機能 独自の技術開発、新素材の企画・開発、外部技術の評価・導入
 ・所在地 兵庫県神戸市

バイオ技術で未来を拓く、サステナ素材の革新拠点へ

NBICはバイオ技術を駆使して、健康寿命の延伸や低炭素・サーキュラーエコノミーの実現に貢献する次世代素材のシーズを継続的に生み出しています。市場との対話を通じて潜在ニーズを引き出し、それに応える素材を独自の技術プラットフォームを活用して「ゼロからイチ」を創出します。“Unavailable Made Available & Sustainable(不可

能だったことを可能にかつ持続的に)”は、私たちの理念です。グループ内外との連携で研究開発の効率化を図るとともに、ユニークかつ競争優位な技術で既存事業をサポートします。さらに、新事業の芽を創出してグループ全体のバイオ事業の成長に貢献してまいります。

NBICの開発事例

Green Catalyst

資源循環社会への貢献を目指し、“Green Catalyst”として知られる環境に優しい酵素・ラッカーゼの開発に取り組んでいます。この酵素は紙の漂白やバイオ燃料電池などの酸化還元反応を触媒し、多様で幅広い用途が期待されています。NBICでは、温度やpHの幅広い条件下で機能する独自の特性をもった、バリエーション豊かなラッカーゼの開発を進めています。私たちはライフ&ヘルスケア製品事業部ならびに欧州現地法人のNagase (Europe) と連携し、製品化を加速します。



食に豊かさを提供する酵素群

私たちは長年にわたり、ナガセヴィータとともに独自の放線菌利用物質生産技術プラットフォーム「N-STEPP®」をつくり上げてきました。この基盤技術を活用し、食味・食感の向上や食品廃棄削減、さらには多様化する消費者ニーズに応えるさまざまな新製品の研究開発を推進しています。営業部門やグループの海外拠点とも密接に連携して酵素の可能性を広げることで、食の未来に新たな価値を提供してまいります。



NAGASE バイオテック(NBT)室の取り組み

グループのバイオ技術を結集して新たな価値創造を目指す

グループ内のバイオ技術を結集して“持続可能な事業”の創出を推進することがNBT室のミッションです。Biotechの結集へ向けた取り組みとして、NBICとナガセヴィータの基盤研究を統合するプロジェクトを進めています。統合により、酵素、酵素反応、発酵を軸に、新規事業に繋がる素材の創出および用途分野への展開を図ります。新事業の創出に向けて、社外パートナーとのオープンイノベーションも進めています。2025年7月にグループに迎えたナガセダイアグノスティックスとの人や技術の交流を、グループ技術基盤の拡充に繋げていきます。



NAGASE バイオテック室統括 近藤 俊夫

機能の掛け合わせの現場から ~サステナブルな社会の実現に向けて~

商社、製造、研究開発機能を掛け合わせ、お客さまの課題や社会課題の解決に挑むNAGASEグループの取り組み事例をご紹介します。

高齢化社会 サーキュラーエコノミー

バイオ由来の高吸水性ポリマー(SAP)で目指す、紙おむつの循環型リサイクル

使用済み紙おむつの焼却によるCO₂排出や、石油由来素材の環境負荷問題を背景に、長瀬産業、ナガセヴィータ、ナガセケムテックスが連携し、澱粉を使ったバイオ由来の高吸水性ポリマー(SAP)を開発しました。

これを活用した紙おむつなどの衛生材料のリサイクル事業では、ナガセケムテックスが分離・再資源化工程を検証し、長瀬産業は政府・自治体・産廃業者・介護施設と連携しながらリサイクルスキームの構築を担っています。このSAPは生分解性があり、高い吸水性能だけでなく、易解体性も有しており、従来困難だった吸水後のSAPと紙おむつの分離が容易になりました。これにより、再資源化がしやすくなったことから、資源循環への貢献や、使用済み紙おむつなどのごみの削減によるCO₂排出抑制も期待されます。



ナガセケムテックス株式会社
機能材料事業部 製品開発部
グリーンマテリアル課
上中 康史



長瀬産業株式会社
機能化学品事業部
トータルソリューション部
北越 開陽

製造

生分解性SAPの開発と用途探索に携わっています。現在は、リサイクルを見据えて生分解性SAPの入った紙おむつやパッドの洗浄方法について検討を進めています。きれいに洗う技術と環境にやさしい洗浄廃水の両立を目指し、地道な試験と改良を重ねています。リサイクル品に対する“高価”なイメージを変え、より身近で持続可能な選択肢として社会に浸透させていきたいです。



フードロス

米国の大手コンビニ向けに プレミックス製品の提供開始

Prinovaは、全米展開の大手コンビニチェーン向けにベーカリープレミックス製品の提供を開始しました。本製品は、ベーカリー製品の食感の向上と賞味期限の延長を実現するために、Prinovaがナガセヴィータの機能性素材を使用して独自ブレンドを提案したものです。

冷凍・解凍耐性に優れており、フードロス削減やオペレーションコストの低減にも寄与します。



PFAS不使用のパルプモールド製カップ

製造

紙・パルプモールドという未知の分野で、試験方法や評価基準を一から構築しながら処方設計を進めました。特にパルプスラリーへの内添による性能付与では、薬品の組み合わせや配合量の最適化に苦労しましたが、NAWの幅広い試験経験を持つ技術員の助言や、測定・分析設備の活用が大きな支えとなりました。今回の挑戦で得た技術を、今後さらに多用途に広げ、サステナブルな社会に貢献していきます。



長瀬産業株式会社
ナガセアプリケーションワークショップ(NAW)
コーティング技術開発課
八田 雅士



長瀬産業株式会社
機能化学品事業部 コーティング材料部
プロダクトマネジメント課兼機能色材部
市場開発チーム
吉田 泰章

商社

商社の幅広いネットワークを活かし、試作が難航する場面でも迅速に相談や追加サンプルの手配ができたことは本プロジェクトの大きな支えとなりました。また、ナガセケミカルの紙分野に特化した設備や知見、NAWの豊富な検査・分析機器による解析により、スピーディに開発を進めることができました。NAW、ナガセケミカルとの協業を通じて、NAGASEグループの強みを改めて実感しました。

製造

素材特性や生産体制のとりまとめに尽力しました。特に苦労したのはスピード感です。出荷量増大に伴う工場の操業安定化に対し、各部署と連携しながら、一丸となって新たなグレードを立ち上げることができました。今後は、グループ連携を深めて販売拡大と安定供給を目指すとともに、別の素材でも新たな価値を生み出す開発を進めていきたいと思っています。



ナガセヴィータ株式会社
生化学品事業部門 営業開発部
塩尻 正俊

製造・研究開発

新規事業開発担当部門のシェフとして、ナガセヴィータの素材を活用したベーカリー向けブレンド「SOFT TEX」を開発しました。ベーカリー分野等での事業展開に向けた基盤づくりを進めています。



Prinova Group LLC
New Business Development,
Ingredients
Mark Susz

PFAS規制 脱プラスチック

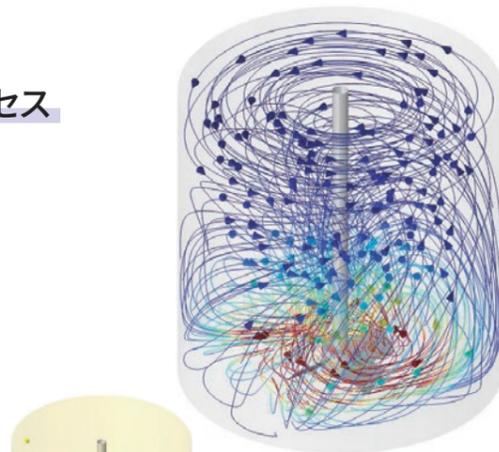
PFAS規制に対応した、 環境配慮型パルプモールドの開発

有機フッ素化合物(PFAS)規制の高まりを受けて、注目されている紙素材「パルプモールド」には、水や油、摩擦に弱いという課題がありました。そこで、NAGASEは、パルプモールドメーカーや、販売子会社のナガセケミカルと連携し、ナガセアプリケーションワークショップ(NAW)で1,000種以上の処方を検討。PFAS不使用で耐水・耐油・耐摩耗性に優れた製品の実用化に成功しました。

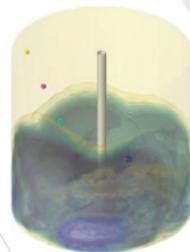
日本の労働人口減少 人材流動化

ものづくりに不可欠な製造現場の混合・攪拌プロセスを可視化する解析ソフトを自社開発

混合・攪拌工程に特化した流体解析ソフト「ミキシングコンシェルジュ™」を自社開発しました。多くの製造現場では、ものづくりや研究開発に不可欠な「混ぜる・攪拌する」工程で、設備や原料の変更に伴う新たなプロセスの構築に多くの時間とコストがかかるという課題に直面しています。従来の解析ソフトは操作が複雑で習得に時間を要しましたが、本サービスは解析の専門知識がないエンジニアでも導入直後から簡単に操作できる仕様を目指しました。短時間で解析結果を得ることで検討の工数を大幅に減らし、製造現場の技術継承や生産性向上などの課題解決に貢献しています。長瀬産業の強みである多様なお客様との接点を通じて、現場のニーズを的確に把握し、当社が持つ高度なプロセスの知見と解析技術を組み合わせることで、より現場目線の実用的な提案を目指します。



ミキシングコンシェルジュ™
流体解析



ミキシングコンシェルジュ™
濃度拡散解析

商社

たくさんの製造現場に足を運び、それぞれの現場が抱える潜在課題を丁寧に見つけ、可視化していきます。評価解析技術を活用することで、人・時間・原料といった貴重なリソースを最小限に抑えながら、何度でも試行錯誤できる環境を整え、お客様の「より良いものづくり」への情熱・挑戦を支援します。そして、日本のものづくり産業を、世界に誇れる力強い未来へと導いていきます。



長瀬産業株式会社
機能化学品事業部
機能性マテリアル部 営業三課
金塚 義明



長瀬産業株式会社
リスクマネジメント部
グループ 製造業経営革新課
加藤 誠太郎

研究開発

日本の高度な攪拌技術を解析で守り、次世代製造ノウハウ継承に挑戦します。プロセスエンジニアとして、製造現場の声を丁寧に拾い上げ、計算モデルの設計などソフト開発の基礎を担当しました。その後も、ソフトの導入結果をもとに改良を重ねながら、サービスの品質向上に取り組んでいます。CAE^(※)で現場の情熱を未来へつなぎます。

※CAE: Computer Aided Engineering



バイオ肥料を施用した大豆の根。球状の部分が、養分吸収を助ける根粒菌

化成肥料によるCO₂排出

化学農薬による人体への悪影響

ブラジル農業の未来を支えるバイオ肥料技術

ブラジルは農業大国でありながら、肥料や農薬使用によるCO₂排出が課題となっています。長瀬産業とナガセヴィータが連携し、トレハロースをバイオ肥料に加えて菌の有効成分を安定保持させることで、肥料の効果を長く保つ方法を提案しました。実証試験でも良い結果が得られており、農家や肥料メーカーの信頼獲得につながっています。商社と研究開発機能を備えるNAGASEだからこそ、現地の課題やお客さまのニーズに迅速に対応することができました。

ものづくりの高度化 素材の機能の可視化

ナノレベルの「見える化」で素材の価値を照らす評価技術

「NanoTerasu(ナノテラス)」は最先端の高輝度放射光施設で、ナノレベルで素材の特性を可視化することができます。NAGASEグループは国立大学法人東北大学と共創研究所を開設し、東北大学キャンパス内に建設されたNanoTerasuを拠点として、グループで取り扱う素材や製品の評価を行っています。これまで見えなかったものが見えることで、素材に新たな価値を生み出すことができるようになります。さらに、多角的なデータ分析により、バイオや食品素材、半導体材料など幅広い分野で製品・技術開発を進めています。

3GeV 高輝度放射光施設
「NanoTerasu(ナノテラス)」



長瀬産業株式会社
ナガセバイオイノベーションセンター
(NBIC)
基盤研究開発課
笹野 有未

研究開発

微生物を活用したバイオ分野でのものづくりの技術に、「NanoTerasu」の強みである高輝度放射光による微細構造解析や精密な特性評価技術を加えることで、バイオ由来素材の新たな価値を見出します。



長瀬産業株式会社
リスクマネジメント部
グループ製造業経営革新課
佐藤 貴紘

研究開発

「NanoTerasu」の最大の強みは経験値を問わない使いやすさと、産学連携による充実したサポートだと感じています。グループ従業員やお客様にとってさらに使いやすく、成果を出せる設備になるように様々な測定手法、ノウハウ習得・修練に励んでいます。



長瀬産業株式会社
ナガセアプリケーションワークショップ
(NAW)
コーティング技術開発課
光本 政敬

研究開発

「NanoTerasu」を使って超軽量の断熱フィルムの観察を行いました。小さい穴が集まってできた断熱層が何重にも重なりながらフィルムにしっかり接着している様子が「丸見え」になり、立体的にその構造を確認することができました。この「見える化」データを使えば、より軽く・薄く・高性能な断熱フィルムを作る道筋がはっきりし、スマホから建物まで幅広い分野でエネルギー節約に役立てられます。

商社

NAGASEのバイオテクノロジーの力で、安心・安全な食を届けることに取り組んでいます。お客様のニーズに真摯に向き合い、同じ目線で共に歩むことで信頼関係を築いています。また、製造の最初から最後まで細部にこだわり、バイオアグロサイエンス分野での「頼れるパートナー」としての存在を目指しています。地球から受けた恵みを大切に、社会に還元していきたいと思えます。



Nagase do Brasil Comércio de
Produtos Químicos Ltda.
Armando Tomomitsu



ナガセヴィータ株式会社
研究技術・価値づくり部門
バイオアグリ・サイエンスユニット
東山 隆信

研究開発

トレハロースの農業分野へのグローバル展開に向けた研究開発を行っています。自社での評価体制の確立も進めており、グループ内における「バイオ×農業」を牽引できる体制構築を目指しています。具体的には、ナガセヴィータに作物栽培システムを導入し、Nagase do Brasilを通じて、ブラジルユーザーが求めるデータを取得できる評価体系の構築を計画しています。